

学校点描

コロナの第3波が起きています。今できることは、手洗い・うがいとともに、人のこころを理解する力の育成だと思っています。

《M中学校》

NO.16 R2. 11. 24

担当：校長

11月8日（土）に、3学年PTA主催による進路激励会が行われました。前半は高校入試についての説明会を保護者と生徒と一緒に聞いて、後半は生徒代表の決意表明と合唱を披露してくれました。15の春に向けて、いよいよスタートを切った感じがします。

14日（土）はT市の県運動総合公園テニスコートにて、女子ソフトテニス団体の決勝大会が開催されました。北ブロック大会1位で勝ち抜いた金山中学校女子ソフトテニス部は準々決勝でN南中から勝利し、準決勝でN北中と対戦、1-2で惜しくも敗れて3位でした。最近はずぐに日が暮れて、真っ暗な中、男子と一緒に見えにくいボールを追いかけての練習でした。素晴らしいがんばりです。

10月末に、1年生、2年生の生徒を中心に『スチューデント・サポーター』募集のチラシを配布しました。初めての制度なので、なかなか集まらないことを予想し、担任の先生から、将来“看護師”を希望している生徒に声をかけてもらいました。結果、9人の女子生徒が受講生として参加してくれました。きっと受講生本人にとって、有益なものとなるはずです。

スチューデント・サポーター



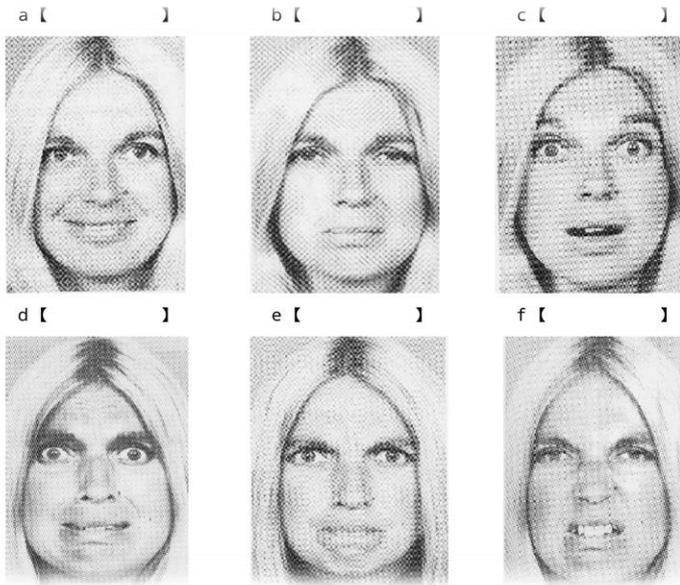
人間のこころは、風に揺れるカーテンや止まっている車にすら、人間の顔に見えて恐怖や幸福を感じたりすることがあります。こんな話は、『認知心理学』の本を読んでいるとよく出

てきます。人間のストレスの9割は人間関係のトラブルです。このトラブルの原因の多くは、この認知の部分に大きく関わっているのです。

この度、本校において、新しく『スチューデント・サポーター（Student Supporter）』という制度を作りました。生徒（スチューデント）同士が支え合う（サポート）という意味です。目の前で困っている仲間、悩んでいる仲間に対して、側にそっと寄り添うことができる生徒、または悩みを聞いてあげる生徒、いわゆる“生徒版のスクールカウンセラー”の育成です。スチューデント・サポーターと認定されるには、9回からなる「こころ」に関する講義を受講してもらいます。講義終了後には、スチューデント・サポーターの認定書を授与します。

10日の放課後に開講式を行いました。簡単な開講式を済ませ初回は、校長であるわたしが、講義を行いました。わたしの講義の1部を紹介しましょう。

次の写真をみて考えてもらいます。写真の6つの表情から、驚き・恐怖・嫌悪・怒り・幸福・悲しみのどの表情か判断してみようと問いを出しました。



すると9名の生徒たちは、表情から読み取れる気持ちを全員一致して、当てました。さらに深く考えてもらいます。人の表情は、時に感情や気持ちと矛盾した表情で表すことがあるということです。例えばaは幸福な表情なのに、人を侮辱する気持ちの表情で使うこともあります。bの悲しみの表情は、望みが叶った時のうれし涙の

表情で使うこともあります。下の段の表情の1つは、恐怖の表情であるのに、すべてが怒りや嫌悪の表情と誤って理解されることがあります。この認識のズレが、人間関係を壊し、けんかやいじめの原因となって生じてくるのです。

これは「認知心理学」のひとつです。認知とは、“もののとらえ方や考え方”です。私たちは目や耳などの五感から得られる様々な情報を手がかりとして、出来事を理解しようとしています。特に重要な手がかりとなるのは、顔の表情です。私たち人間は生まれつき顔に対して敏感に反応してしまいます。だからカーテンや車が人間の顔に見えてしまうのです。逆にSNSなど、文字だけで五感を使えないコミュニケーションはさらなる認識のズレを生みます。

最後に1回目の講義を受けた感想を9人の受講生に書いてもらいました。

2年生のM・Hさんは、「マスク生活により、喜怒哀楽の表情がわかりにくくなってしまったことも、友人と絡む（関わる）人が減った原因にもなっているのかな」と書いていました。

45分の講義をとおして、9人の中学生が『心理学』の入り口に立ってくれました。

きりとり

ご意見・ご感想をお願いします。